



YOUのアジャイルから
宝を掘り出して披露しちゃいなよ
そだねー



アジャイル実践論文の作り方

席は自由です。

A4用紙を折って自己紹介用の名札をお作りください。

業界 役割 氏名

何か一言（最近の悩みなど）

机上の道具を確認しましょう

- 印刷物

- 論文構造図

- アジャイルソフトウェア開発宣言の読みとき方

- <https://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/itssplus.html#section1-4>

- アジャイル新聞第4号

- <https://www.agilejapan.org/link04.html>

- 文具

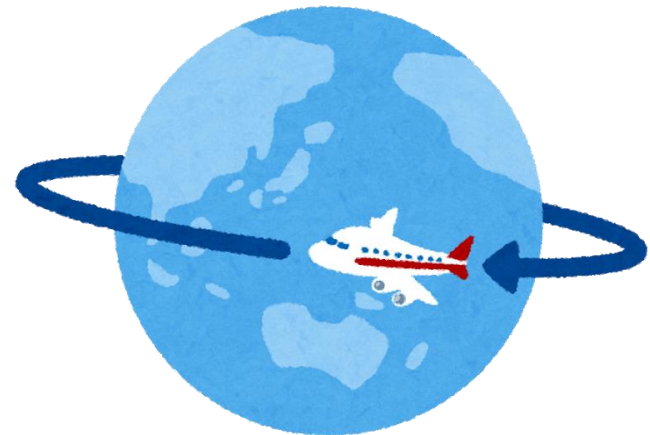
- A3用紙、付箋、サインペン

- A4用紙 → 名札用

※投影資料は後日公開しますのでメモは不要です。

本セッションの開催主旨

- アジャイルの事例紹介が盛んになってきた
- 事例紹介の次のステップとしての論文
 - 事例紹介：ノウハウを読み手がを見つける
 - 実践論文：ノウハウを書き手が見つける
- 論文の形にすれば
世界にアピールできる



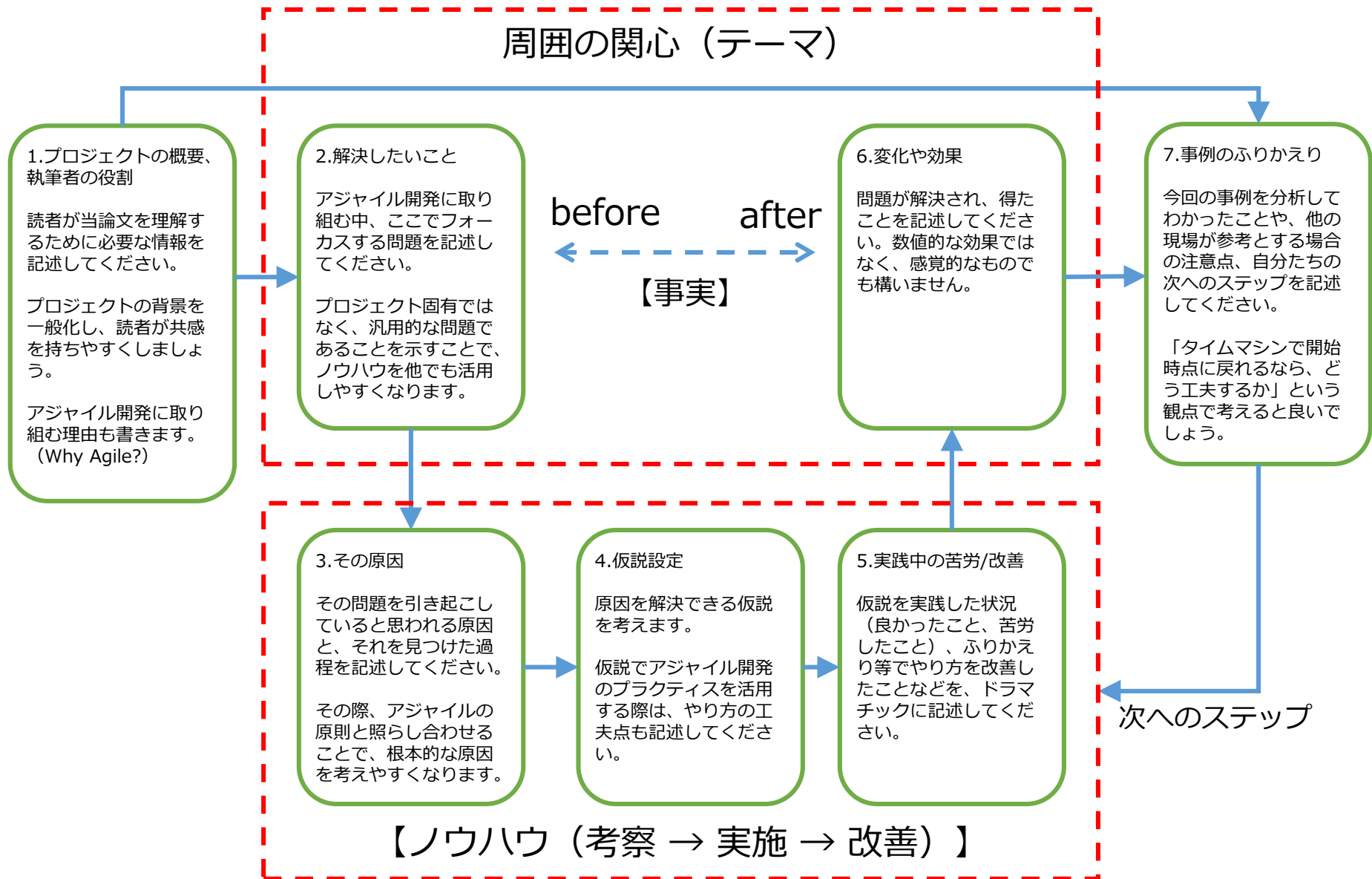
論文を作成する目的

- 知識を共有する
 - 知識をチーム内でのみ蓄積するのではなく、組織、企業全体、社会と共有することで、全体を向上させる
- 研究活動
 - 暗黙知も大切だが、形式知化して研究活動にする
 - 形式知を自分達のものにするまで繰り返せる
- 世界へのアピール
 - 英語に翻訳すれば海外の学会などに投稿できる
 - 日本のアジャイルを世界にアピールできる

本日のアウトプット

- 自分の現場の取組みから知識を抽出する
- その知識を元に実践論文の構造を作る
- 実践論文の構造図は次のページ（配布物）
- アジャイル仲間から知識を発掘し、それを持ち帰る

アジャイル実践ノウハウのまとめ方（論文構造）



(前ページで紹介した論文構造図はJASPICの成果物を流用させていただきました)



日本SPIコンソーシアム

日本SPIコンソーシアム（JASPIC）は、21世紀の世界で利用される様々な社会システム、産業システムや各種の工業製品などの開発の中核をなすソフトウェアプロセスの改善（SPI）およびSPIに伴うプロセス評価（SPA）に関する研究、技術移転、普及活動、国際交流などを行う事を目的に設立された非営利団体です。

SPI Japan 2019

毎年開催されています。アジャイル事例発表も増えており、SPI Japan 公式サイトで資料公開されています。

- 日程：2019年10月9日(水)～11日(金)
- 場所：京都テルサ（京都府京都市）

本日の進行（実績）

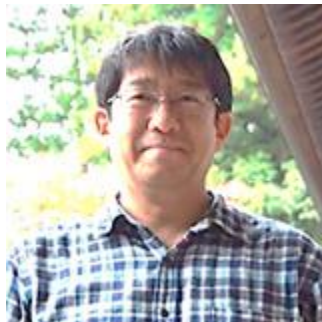
No.	分	単位	内容
1	5	個人(1)前半	自分のアジャイル実践経験の中から自慢したいことを選択し、論文構造図に沿って整理する。主に(4)(5)。
2	12	グループ(1)	披露し合い、質疑応答を経て自身では気づかなかったノウハウ(宝)を掘り出す。
3	5	個人(1)後半	説明と質疑応答を受けて、それ以外の章も考える。
4	5	個人(2)	論文として必要な要素を司会側から説明するので、それを受けて更にノウハウ(宝)を掘り出す。
5	12	グループ(2)	再び披露し合い、質疑応答やお互いのアドバイスを通して、論文の骨子を磨く。
6	10	全体	各自の成果物を他グループにも共有する。

ナビゲーター紹介

アジャイルジャパン実行委員会

- ・司会

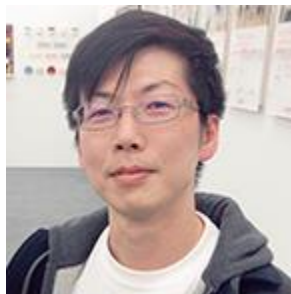
- ・和田 憲明



- ・会場サポート

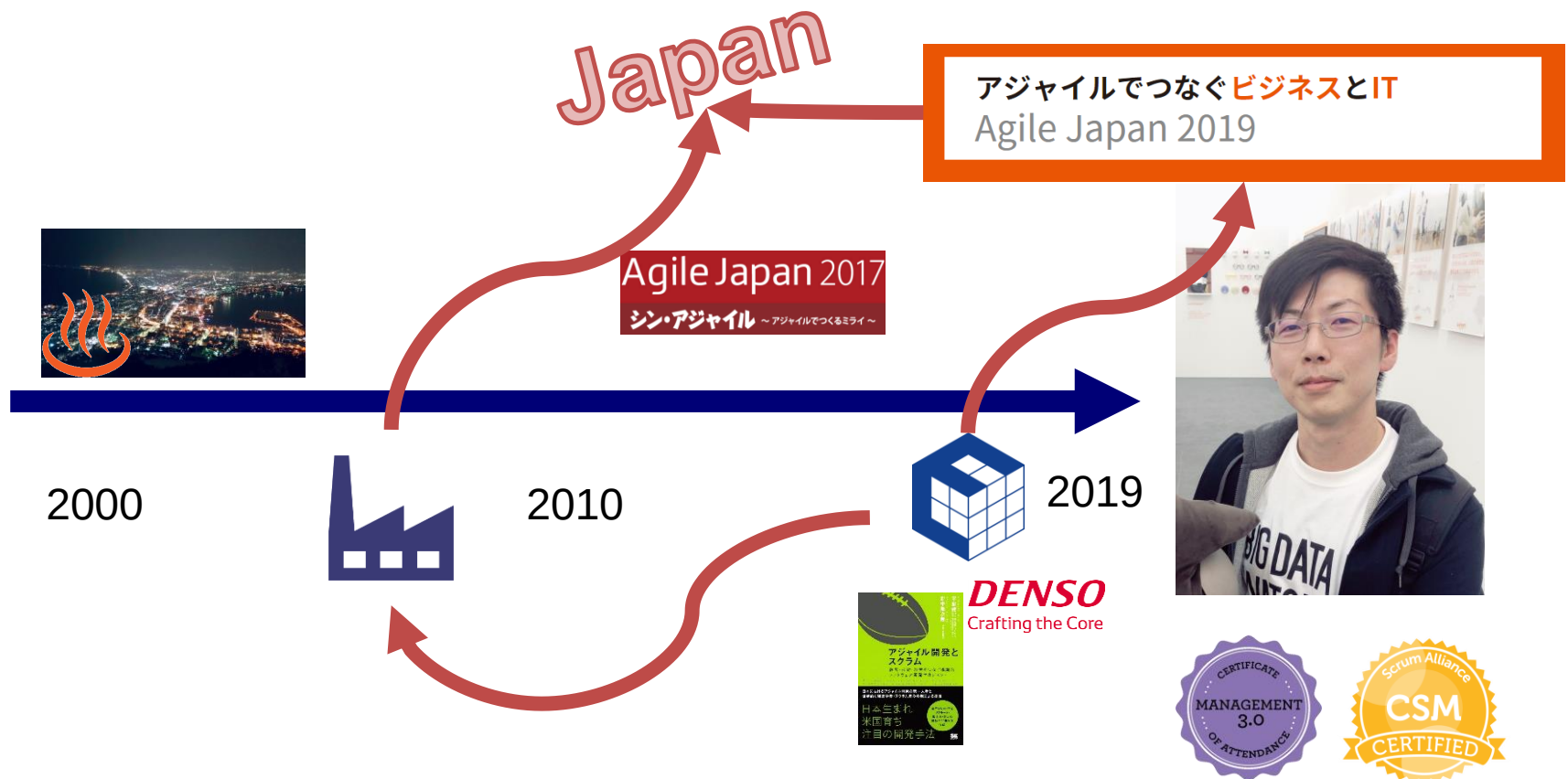
- ・小坂 淳貴

- ・関 満徳



自己紹介

・ 小坂 淳貴 (Junki Kosaka)



自己紹介



関 満徳
せき みつのり

グロース・アーキテクチャ&チームス株式会社
プロダクトオーナー支援スペシャリスト
Microsoft MVP for Development Technologies

ITサービス開発全般のコンサルティング、開発、運用を一括して手掛けながら、「顧客価値の創造」と「持続可能な仕組み創り」をテーマとしたアジャイル・プロダクトマネジメントのワークショップデザインを数多く実施。全国各地でファシリテーターとしても活躍。



コンタクト先	URL
Blog	http://fullvirtue.com/
Twitter	https://twitter.com/fullvirtue
Facebook	https://www.facebook.com/fullvirtue
Email	m.seki@graat.co.jp
資料公開場所	http://slideshare.net/fullvirtue/ これまで登壇してきた資料はこちらで公開しています！ 是非ご覧ください！



Ⅰ.個人ワーク(Ⅰ)前半

自分のアジャイル実践経験の中から自慢したいことを選択し、テンプレートを用いて整理する。

【お願い】

成果物は本日回収して後日公開しますので、
付箋に固有名詞を書かないでください。

・考える順番について → 次ページ以降

考える順番について

論文の読者にとっては、1.~7. に沿って読むことで、
下記を確認しやすい。

- ・自分の現場と同じ背景か
- ・自分の現場が抱える課題と同じかどうか
- ・効果があったかどうかを確認する手段／指標がわかる

考える順番について

論文は業務報告ではないので、順序通りに(1)から考える必要はない。他者に参照してもらうために、最終的に整理されていれば良い。

1. 自らの現場実践経験から、自慢したいネタをピックアップする。→(4)(5)
2. アジャイル原則に基づいて、原因を（後付けでもいいから）作り上げる。→(3)
3. 行動しようと思った悩みごとを思い出し、問題と効果を考える。→(2)(6)

例：アジャイル研修の活用

「プロジェクト立ち上げ時に体験型研修を実施すると効果がある」



4. 最初にチーム全員でスプリントを数回繰り返す研修を受ける

5. 研修日数を1日→2日に増やし、スプリントを3回しっかりと回すことにした



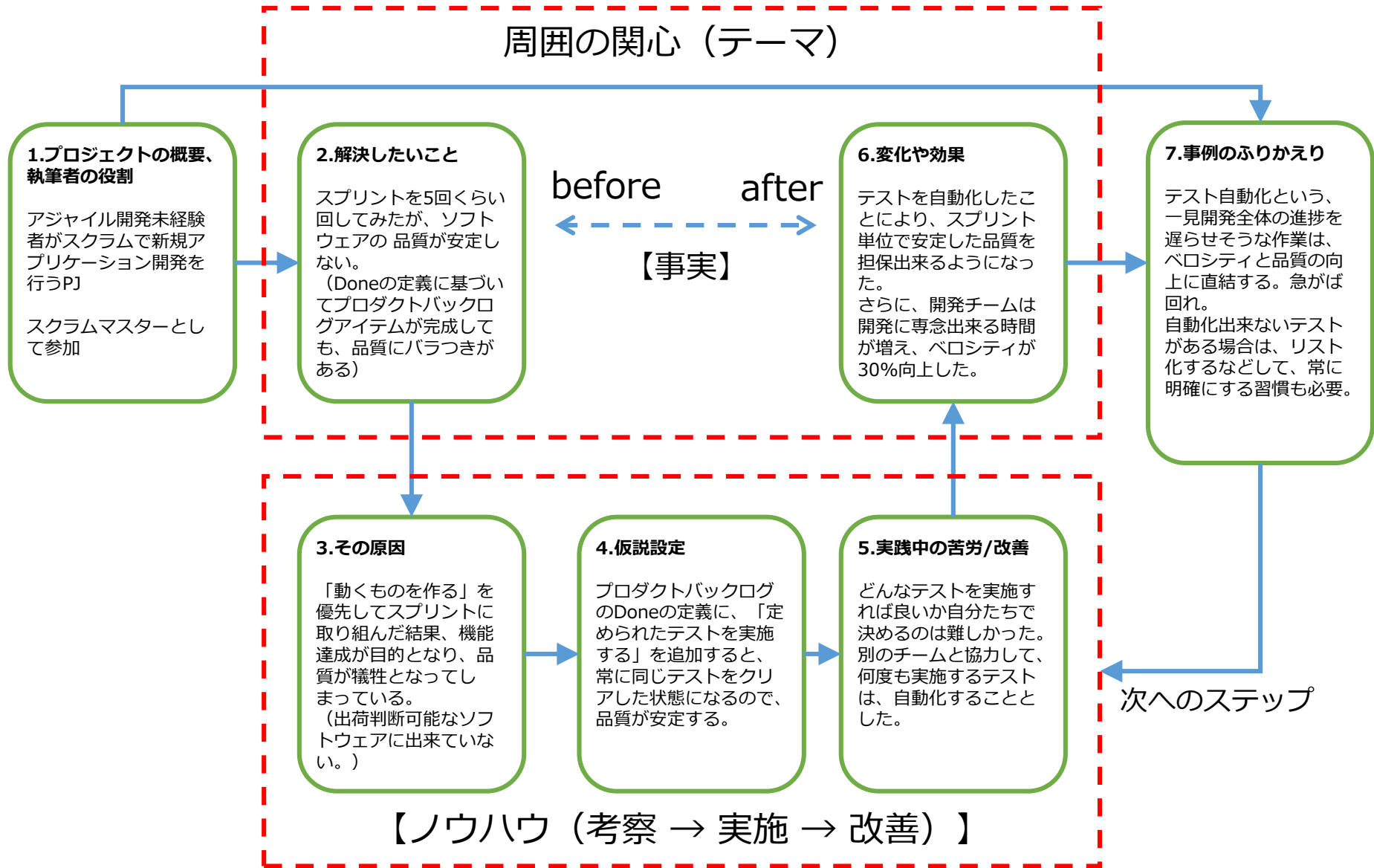
3. 人それぞれでイメージするアジャイルのやり方が異なっている



2. 立ち上がり時にやり方がそろわず「動くソフトウェア」が作れない

6. 2日間の研修を2つのプロジェクトで試したところ、スムーズに立ち上がった

【サンプル】 急がば回れで担保する自動テストと品質



A3用紙に付箋を貼りましょう

トップダウン
アジャイル

ボードレゼン
新人主旨わがず
ベテランがず。

阻害要因
・やり方のみ指示
・途中から参加

活動の目的
共有されて
いい？

改善提案
あり。

新人から
理解してもら
と発言あり

ボードに対する
改善提案
1件/W.

活動自体の
セッチを作る
全員が同じ
方向を向く

ココから始めましょう

良いポイント
人材育成
2人でしか
OK.

2.グループワーク(1)

グループ内で披露し合い、質疑応答を経て自身では気づかなかったノウハウ(宝)を掘り出す。

※3分×4人(3分毎に合図します)

1. 作成者が内容を説明する。
2. 他の人達が質問する。
 - ・その対策を思いついたきっかけは？
 - ・一般的な〇〇ではなく△△を選んだ理由は？
3. アドバイスする。

3.個人ワーク(1)後半

グループディスカッションから得たヒントから
自分の論文構造図を肉付けしましょう。

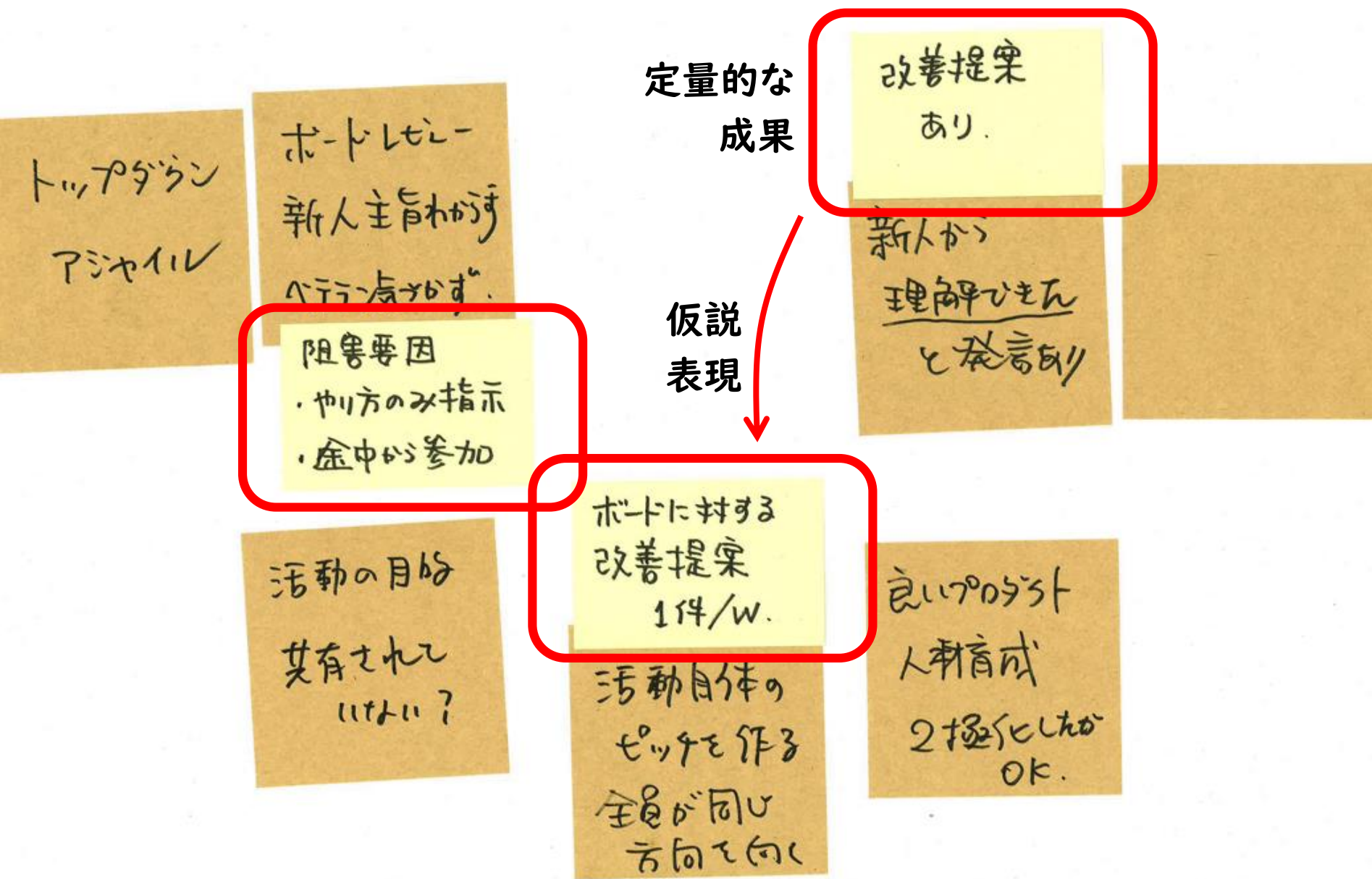
4.個人ワーク(2)

論文として必要な要素を司会側から説明するので、それを受けて更にノウハウ(宝)を掘り出す。論文仕立てにする。

1. 施策を実施できない理由(阻害要因)を見つける。→(2)
2. 皆にアピールできるもの(定量的な成果)を見つける。→(6)
3. それを仮説表現にする。→(4)
4. 皆が共感できる背景を見つける。→(1)
5. ふりかえって更なる工夫を考える。→(7)

A3用紙に付箋を貼りましょう

付箋の色を
変えよう



5.グループワーク(2)

再びグループ内で披露し合い、質疑応答やお互いのアドバイスを通して、論文の骨子を磨く。

※2分×4人(2分毎に合図します)

1. 作成者が内容を説明する。
2. 他の人達が質問する。
3. アドバイスする。

6.全体共有

各自の成果物を他グループにも共有する。

※2ラウンド 各3分半（実績）

1. 説明者がテーブルに残る
2. それ以外の人とは他のテーブルに行く
3. 会場の右と左で4グループずつ実施



YOUのアジャイルから
宝を掘り出して披露しちゃいなよ
そだねー



アジャイル実践論文の作り方

みなさんのアジャイルが
進化しますように! おわり

当日参加した方々が作成したA3用紙の成果物は
別ファイルとして公開しています